診療最前線

皮膚科・アレルギー科　最近のトピックス

皮膚科・アレルギー科部長
瀧澤好廣

皮膚科における最近の動きを簡単に紹介します。様々な領域で新たな治療法が登場しています。治りにくかった症状が取れるようになり、精神的な苦痛や負担が軽減される患者さんもおられます。

尋常性乾癬（かんせん）および乾癬性関節炎

乾癬は、図1にあるように、カサカサした皮疹が全身に生じる疾患です。かゆみを伴うことも多いのですが、問題は、乾癬以外の合併症リスクが高いことです。

図１　尋常性乾癬

乾癬とメタボリック症候群の関連は、しばしば指摘されています。表1にあるような疾患を生じやすいことが知られており、きちんと治療しないと寿命を縮める可能性があるとの調査結果も出ています。

さらに、乾癬には関節炎を合併することもありますが、あまり知られていません。しかし、乾癬性関節炎は、乾癬以上に心血管障害などを引き起こしやすいことがわかっています。乾癬と関節症状がともにあるような場合は、皮膚科のみではなく、リウマチ科や整形外科などにも相談するようにしましょう。

どちらの疾患も、注射剤による治療でかなりの効果が得られることがわかっています。乾癬および乾癬性関節炎に有効な注射剤は、10種類使えるようになりました。効果と副作用を検討し、適切な薬剤選択ができるようになっています。

表１　尋常性乾癬に併発しやすい疾患

- メタボリック症候群（高血圧・高脂血症など）
- ２型糖尿病
- 非アルコール性脂肪性肝炎
- 慢性腎不全
- 心筋梗塞および脳梗塞
- うつ病・アルツハイマー型認知症
- 眼のブドウ膜炎
- 関節炎（乾癬性関節炎）
- 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）

掌蹠膿疱症（しょうせきのうほうしょう）および掌蹠膿疱症性骨関節炎

掌蹠膿疱症は、図2にあるような、膿を持つ皮疹が手のひらや足の裏に出てくる、やっかいな疾患です。見た目が悪いだけではなく、生活に支障を来す場合も多く、効果的な治療が難しいことから、満足な治療効果が得られていない患者さんも多いことでしょう。

図２　掌蹠膿疱症

掌蹠膿疱症には、掌蹠膿疱症性骨関節炎という、乾癬性関節炎によく似た疾患があります。特徴的なのは、図3に示した胸鎖関節付近に腫れと痛みを生じやすい点で、掌蹠膿疱症でこのような症状がある場合は、積極的に注射剤による治療を行った

方が良いとされています。

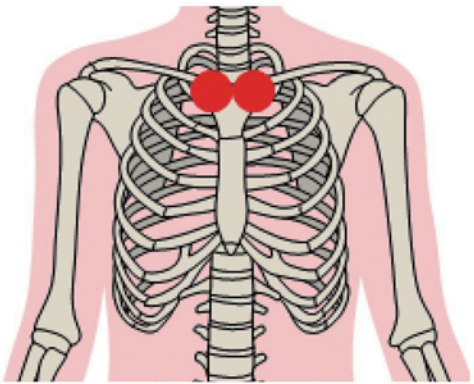

図３　掌蹠膿疱症性骨関節炎の好発部位

治療に難渋している方は、一度皮膚科外来でしっかり相談してみると良いでしょう。

図４　アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎（図４）でも、注射剤による効果的な治療ができるようになってから３年近く経過しようとしています。従来の治療で効果不十分であった患者さんに対し、日本全国でかなりの患者さんに使われるまでになっています。このほか、ステロイドではない外用剤が新たに使えるようになり、従来の外用治療で効果が不十分であった患者さんに対し、新たな選択肢を提示できるようになりました。

以上、新たな治療に関して変化のあった疾患について取り上げてみました。治療法などについて確認したいことがある方は、ぜひご相談ください。なお、診療時間は病院のホームページに掲載されていますので、ご確認の上お越しください。

長野松代総合病院
ホームページ
外来担当医表

スマートフォン等で読み取ってご利用ください。